



学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

[発信] 松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

<http://www.matsumoto-u.ac.jp>

平成30年8月27日

報道関係各位

第13回合同ゼミ「松本を実際に歩いて、松本の新しい魅力を創造しよう！」の取材のお願い

拝啓

残暑の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。さて毎年恒例の日本大学および明星大学と松本大学観光ホスピタリティ学科の4ゼミとの合同ゼミが今年も行われます。

今年で13回目になる合同ゼミは、東京と松本の学生がそれぞれの視点から松本の街づくりを考える機会として毎年日本大学と松本大学の学生が参加して行われます。これまで、まちづくりや商品開発などの調査や検討などを行い、スイーツラリーやカフェあげつちの開設、駅弁開発や日本酒チョコレートなどの具体的な成果に結びつきました。東京の学生の視点と地元の学生の視点を重ねることで新しい発見が毎年あり、その後のゼミナールによるまちづくりの活動の具体的なきっかけになっています。

本年度も、松本大学の学生が日ごろから取り組んでいる地域づくりの活動を外からの視点を取り入れてさらに発展させることを狙い、5つのプログラムに挑戦します。特に学生カフェの経営や食べ歩き用の商品の実証販売など、より具体的な活動を予定しています。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、取材方よろしくお願いたします。

敬具

記

テーマ：松本を実際に歩いて、松本の新しい魅力を創造しよう！

日時：2018年9月4日（火）～6日（木）

参加者：日本大学高橋雅夫ゼミ・明星大学高橋和子ゼミ・松本大学増尾・白戸・畑井・向井ゼミ・  
デパートサミット支援会ゆにまる 合計約70名

場所：松本大学・松本市内

協力：カフェあげつち・大正ロマンのまちづくり協議会・上土商店街振興組合・同女性部・松本市大手公民館など

内容：別紙のとおり

問い合わせ先 松本大学 白戸研究室・向井研究室 0263-48-7200

以上

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



## 2018年 合同ゼミナール 概要

### 1 目的

日本大学・明星大学と松本大学の学生が、大学を超えて、まちづくりについて、実際に地域に出かけ、地域活性化について考えるとともに、若者の発想をまちづくりに活かすきっかけとする。

### 2 日程 2017年9月4日(火)～6日(木)

9月4日	13:30	開講式・日程説明 松本大学 515 教室 上土のまちづくりに関する説明
	14:30	プログラム別活動(準備作業等)・グループ1・3は移動
	17:00	ホテル経由で上土に移動(日大生・明星大生)
	18:00	日大・明星大の学生は上土に関する学習
9月5日	終日	プログラム別活動(地域での活動・まとめ・発表の準備)
	19:00～	交流会 スターライトビアガーデン(丸善屋上・3200円)
9月6日	10:00	成果発表・まとめ(12時終了) 松本大学 515 教室

### 3 場所 松本大学・上土商店街・松本市中心市街地・上高地

### 4 内容

- ① プログラム1 学生カフェを通じてまちづくりを考える
  - ・ 日大生に学生カフェの運営案(運営テーマ)を事前に考えてもらい、当日のカフェあげつちの学生カフェの運営を委ねる
  - ・ 松本市内のカフェ実態調査:→ 松本市内の他のカフェの実態調査を通じて、今後のコミュニティカフェのあり方を検討する
    - 事前学習: 運営案を考えてきてもらう・面白いカフェの事例を調べてきてもらう
- ② プログラム2 松本の観光ガイドマップを検証する
  - ・ 既存のガイドマップを利用したまち歩き → 各マップの長所、短所を洗い出し、今後のマップ作成に活かす!
  - ・ マップに関する観光客の実態調査 → どこから、どういうきっかけで、どういうガイドブックを持って、何に魅せられて、松本に来訪しているのか?
    - 事前学習: 面白い観光マップを収集してきてもらう
- ③ プログラム3 松本に新しい食べ歩き文化を創る～商品開発に取り組もう
  - ・ 松本市内の食べ歩き商品の実態調査→ 松本市内の食べ歩き商品の実態調査を通じて、今後のヒントを探る

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



- ・ 既存の商品（つくね・山賊焼など）を販売する→ 売り子として活動してもらいながら、今後の商品開発のヒントを探る
  - 事前学習：東京等で食べ歩き商品の事例を調査
- ④ プログラム4 歴史的建築物である上土町電気館の再生にむけて歴史を調査する
- ・ 中央地区の「記憶に残す」計画に連携する形で、松本の歴史・出来事など（※電気館も含む）に関する記憶の聞き取り調査を実施する
  - 事前学習：戦後の昭和期における松本の歴史・出来事について事前学習してくる。
- ⑤ プログラム5 上高地の観光プロモーションを体験する
- ・ 上高地で観光プロモーション業務を体験する
  - 事前学習：上高地について事前学習してくる



## プログラム別の詳細な日程と内容

### プログラム1 学生カフェを通じてまちづくりを考える

「カフェあげつち」における学生カフェの運営体験&松本市内のカフェ実態調査

作成者 白戸ゼミ 畑井ゼミ

#### 1. 概要

##### ①学生カフェの運営体験

日大生・明星大生に「学生カフェの運営案（運営テーマ）」を事前に考えてきてもらい、上土商店街にあるコミュニティカフェ「カフェあげつち」の運営を体験してもらう。

##### ②松本市内のカフェ実態調査

松本市内にある他のカフェの実態調査を通じて、今後のコミュニティカフェのあり方を検討する。

#### \*事前学習（当日までに、日大生・明星大生に行ってきて欲しいこと）

- － 9月5日（水）の「学生カフェの運営案（運営テーマ）」の検討と準備
- － 首都圏の面白いカフェの事例収集

#### 2. 参加メンバー 15名 + 畑井（観光ホスピタリティ学科准教授）

- － 松大生 6名 日大生 5名 明星大生 4名

#### 3. 日程

9月4日（火）大学・上土で事前準備

- ・ 自己紹介
- ・ 上土商店街、コミュニティカフェ「カフェあげつち」についての紹介  
（松大生が担当）
- ・ 日大生・明星大生に、事前に考えてきてもらった  
「学生カフェの運営案（運営テーマ）」についての発表  
（日大生・明星大生が担当）
- ・ 「松本市内のカフェ実態調査」についての発表 （松大生が担当）  
→それぞれの説明資料を人数分用意しておくこと！

- ・ 翌日の「学生カフェの運営」「カフェ実態調査」のグループ分け
  - － 松大生6名、日大生&明星大生6名を3グループの構成に分ける
  - － 1グループあたり：松大生2名、日大生&明星大生2名の計4名
- ・ 18時より上土に移動し上土の方のお話

9月5日（水）「学生カフェの運営」 & 「松本市内のカフェ実態調査」の実施

- ・ 成果発表に向けた準備

（※この場面で、首都圏の面白いカフェの事例も織り込みたい）

9月6日（木）まとめ・成果発表

---

#### ■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



#### 4. 活動の具体的内容

- \* 3グループとも交代制で「学生カフェの運営」、「カフェ実態調査」を必ず経験する
- \* 「学生カフェの運営」については、日大生・明星大生の「学生カフェの運営案（運営テーマ）」を実行する。松大生は、そのサポートを担当する。
- \* 「カフェ実態調査」については、カフェの出店状況など外形的に分かる点を把握するとともに、松本市内のカフェを複数選択し、お店の来店者、店長などに対してアンケートをとる。調査項目については、現在、松大生が検討中。

#### 5. 注意事項

- \* 【重要】上土町会・上土商店街に対しては、活動内容についての事前説明を丁寧に行うこと。  
また活動内容を周知して頂けるような準備を行うこと
- \* 【重要】松本市内のカフェの中において、お店の来店者、店長などに対してアンケートやヒアリングなどの調査を実施する場合は、必ずお店の方の許可をとること
- \* 2日目の昼食は、各自で手配すること

#### 6. 準備するもの

- \* パソコン・カメラ3台・カラーペンなど

《参考》

2018年度に実施済・実施予定の「学生カフェの運営案（運営テーマ）」

- －音楽カフェ（実施済）
- －草刈カフェ（実施済）
- －花カフェ
- －大正ロマンカフェ など

### プログラム2 松本の観光ガイドマップを検証する

作成者 白戸ゼミ 畑井ゼミ 増尾ゼミ

#### 1 概要

観光マップを実際に利用しまち歩きをしながら、観光客の動向を調査する。

日大生と共にまち歩きをする中で観光マップの長所、短所を探り、アンケートの情報を基に新しい観光マップを提案する。

- 事前学習：面白い観光マップを収集してきてもらう

#### 2 参加人数 13名＋増尾（観光ホスピタリティ学科教授）

松大生：7名

日大生：6名 計13名

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

[発信] 松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

<http://www.matsumoto-u.ac.jp>

### 3 日程

9月4日(火) 14:30~16:00

- ・松本大学で事前準備
- ・全体会後に松大生と日大生で話し合いをする
- ・自己紹介(※説明資料を人数分印刷しておく)
- ・グループ分け(3グループ 松大生、日大生各2名の計4名)
- ・マップ割り振り
- ・翌日の詳細を決める

(まとめる方法、周る方法、事前学習で得た情報の共有など)

16:30 上土に移動 (途中ホテルにチェックイン)

18:00 日大生は上土の方の話を聞く

9月5日(水) 9:00~14:00

- ・観光マップを使ったまち歩き(アルプコプラザホテル・旧東急イン集合)
- ・昼食は各自でとる

14:00~16:00 上土ふれあいホール

- ・各グループでまとめ、成果発表に向けた準備を行う

(まち歩きとアンケートからこれからの観光マップに必要な要素を提案する)

9月6日(木) 松本大学

- ・まとめ・成果発表

### 4 活動の具体的内容

- ・既存のガイドマップを利用したまち歩き → 各マップの長所、短所を洗い出し、今後のマップ作成に活かす。
- ・マップに関する観光客の実態調査 → どこから、どういうきっかけで、どういうガイドブックを持って、何に魅せられて、松本に来訪しているのかをアンケートをとる。

### 5 注意事項

- ・まち歩きの際に暑さが想定されるため、水分補給、服装に注意
- ・アンケートを取る際、観光客等の迷惑にならないよう配慮する

### 6 準備するもの

\*パソコン・カメラ3台・カラーペン・画板・模造紙・付箋など

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



## プログラム3 松本に新しい食べ歩き文化を創る～商品開発に取り組もう

### 1 概要

松本には大勢の観光客が訪れるが、まち歩きの中で手軽に食べることができる食材が少なく、食べ歩き文化がない。昼食と夕食の間に松本ならではの食を楽しむ食べ歩き文化を創出することが必要である。このような背景から、白戸・畑井・向井ゼミでは、今年度松本に食べ歩き文化を定着させる為に商品開発を行ってきている。

これまでの経緯は以下のとおりである。

2月 カフェでの山賊焼の試験販売

3月 東京谷中にて食べ歩きの実態視察

4月～6月 食べ歩き食材の検討

つくね(本郷鶏肉)・山賊焼およびバーガー(本郷鶏肉)・フランス鴨のモツの燻製のサンドウィッチ(フランス鴨の会笹井会長の提案)・安曇野の食材のホットドッグ(ホテルアンビエント 大田シェフの提案)・レモネード

学生カフェ等での試食・試飲の実施 レモネード・山賊焼

8月5日 上土納涼祭にて上土納涼祭で3種のつくねを提供してアンケート等を行う

8月中旬 試食の結果を踏まえ調整する

9月4日 合同ゼミにて食べ歩きの調査・呼び込み・販売を行う

日本大学・明星大学には東京で事前の調査を要請

9月中旬 地鶏の会にて試食・提供

9月中旬 商品発表の記者会見

10月以降 大学祭・市民祭・えびす講等で販売・セールスプロモーション

そこで、現在商品開発のひとつとして開発を行っている信州の食文化でもある鶏肉を使ったつくねを素材として取り組みを行う。具体的には、松本市内の食べ歩き商品の実態調査と既存の商品(つくね・山賊焼など)の実証販売を行い観光客などのニーズを探り商品開発に役立てる。

● **事前学習**：東京の食べ歩きの事例を調べてくる

### 2 参加メンバー 13名 + 白戸(観光ホスピタリティ学科教授)

松本大 6名 日大 3名 明星大 4名

### 3. 日程

9月4日(火) 全体会終了後上土に移動して事前準備

・自己紹介

・商品開発の経緯についての紹介

(松大生が担当)

・日大生・明星大生に、事前に考えてきてもらった事例について発表

・調査の計画作りと実証販売についての検討

・翌日の「実証販売」「食べ歩き商品の実態調査」のグループ分け

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

〔発信〕松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

http://www.matsumoto-u.ac.jp

- ・ 松大生6名、日大生&明星大生6名を3グループの構成に分ける
- ・ 1グループあたり：松大生2名、日大生&明星大生2名の計4名
- ・ 18時より上土の方のお話

9月5日（水）

- ・ 「実証販売」および「食べ歩き商品の実態調査」の実施  
「実証販売」のポイントは、価格と量の検討  
→ 試食をしてもらい、200円（2個）と300円（3個）を販売し比較  
冷凍のつくねをレンジで解凍後焼き鳥器で焼いて提供  
アンケートを作成する（アンケート原案は松大で作成）
- ・ 食べ歩き商品の実態調査はカメラ等で記録を残す
- ・ 1グループが実証販売、2グループが調査のシフト
- ・ 成果発表に向けた準備

9月6日（木）まとめ・成果発表

#### 4 内容

2～3チームに分けて調査と実証販売を交代で実施する

- ① 松本市内の食べ歩き商品の実態調査
  - ・ 松本市内の食べ歩き商品の実態調査を通じて、今後のヒントを探る
- ② 既存の商品（つくね・山賊焼など）の実証販売
  - ・ つくねについては残る課題の価格について観光客に買ってもらえるかというマーケティング調査を行う。具体的に試食によるアンケート調査と実証販売をくみあわせて販売可能性を検証する

#### 5 用意する物品

模造紙、ポストイット、カメラ3台、マジックの準備、エプロン、ホットケース、焼き鳥機、他販売に必要な機材（機材の調達は事前に松大生が行う）

#### 6 注意事項

食べ歩き調査：筆記用具、帽子、タオル、飲料（水分補給のため）

### プログラム4 昭和の松本の歴史を聞き取る

作成者 向井ゼミ・支援会ゆにまる

#### 1. 概要

##### ①知新堂の会長さん（横沢さん）から、昔の松本の街並みについての話を聞き取る

松本市の博物館友の会の会長であり、松本の街並みや商店街の歴史について詳しい知新堂の会長の横沢さんから、かつての松本の話を聞き取る。

②写真パネルを比較しながら、街並みの変遷を整理するとともに、地域の方たちから、昭和の松本の様子について話をしてもらう

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)





学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

〔発信〕松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

http://www.matsumoto-u.ac.jp

松本商工会議所からお借りしてきた写真パネルの中で、松本駅・上土・学校などの酢釣り代わりを経年比較しながら、どのように松本の街並みが歴史的に変遷をしてきたのかを整理するとともに、それらの写真を見ながら、当時の思い出を地域の人たちに語ってもらう。

#### \*事前学習（当日までに、日大生・明星大生に行ってきた欲しいこと）

1) 「復活させたい江戸時代の旧町名」（新まつもと物語内ホームページ内、<http://youkoso.city.matsumoto.nagano.jp/tek/?p=367>）を事前に関連しておき、松本の旧町名とその位置関係がどうなっているかを確認しておくこと。

2) 戦後の昭和以降の松本において起きた出来事について何があるか調べてくる。

#### 2. 参加メンバー 4名+α+大野（観光ホスピタリティ学科教授）正木（松本市地域づくりインターン）

- |                |         |    |
|----------------|---------|----|
| —松大生の人数        | 向井ゼミ    | 2名 |
|                | 支援会ゆにまる | 数名 |
| —日大生・明星大生の参加人数 |         | 2名 |

#### 3. 日程

9月4日（火）開会式の後、グループ別での行動。

- ・自己紹介
- ・松本の地名と位置関係の確認、写真パネルなどの資料を確認、お互いに情報をシェアする
- ・5日の聞き取り調査のグループ分けと事前準備、記録方法の確認
- ・18時より上土の方のお話

9月5日（水）：上土・ふれあいホール2階に集合

<午前の部>

10:00～12:00 横沢さん（知新堂会長）からお話を聞く

<午後の部>

13:00～15:00：昭和の松本の様子について聞き取り調査

15:00～：聞き取った内容についての確認 上土関係者3名 中央地区住民

9月6日（木）松本大学にて、まとめ・成果発表

#### 4. 活動の具体的内容

\*ひとつには松本電気館の再生に向けて、電気館そのものがどのように人々に親しまれた建物なのかを聞き取りをすることを目的としている。

\*ふたつめとしては、学生の聞き取り調査を通して、身近な地域の記憶をたどることで、中央地区における地域づくりの実践モデルとしたい。

\*参加者人数を把握して、グループごとに役割分担を行うこと。グループごとに重点的に話をしてもらい内容を分担しておく。話してもらう内容に即して、年表やパネルなどの資料は用意しておくこと。

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

〔発信〕松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

http://www.matsumoto-u.ac.jp

\* 写真パネルや資料を囲みながら、思い出話を地域の人たちにしてもらおう。学生はその話をしっかりと聞き取り、記録として残しておくこと。

\* 聞き取り調査の事前準備として、5日の午前中には、松本の町の歴史について話をしてもらおう。

## 5. 注意事項

\* 【重要】上土町会・中央地区地域づくりセンターに対して活動内容についての事前説明を丁寧に行うこと（8月20日に実施済み）。あわせて聞き取り調査に協力をしてくれる地域の人たちを募集・声かけをしておくこと。

\* 【重要】上手に聞き取るポイントは、調査差の事前知識の量にも左右されるので、しっかりと松本の町の歴史について頭に入れておくこと。（特に地名はどこかわかるようにしておくこと）

\* 2日目の昼食は、各自で手配すること

## 6. 準備するもの

\* 年表、松本の周辺の地図帳（パソコンでストリートビューを投影し、「現在の様子を見る?）、模造紙、ポストイット、写真パネル、話を聞き出すための事前資料

カメラ1台 ボイスレコーダー（予備を入れて2台）

## プログラム5 日本屈指の山岳景勝地 上高地におけるニューツーリズムの発見

### 1. 概要

上高地において、これまで観光旅行の需要を支えてきたのはアクティブシニアと言われる65～74歳の人たちである。しかし人口減少によってこの需要は徐々に減っていくため、今後は若年層や長期滞在の傾向がある外国人旅行（インバウンド）にターゲットする必要がある。

① いままでの物見遊山的な観光旅行とは違った、地域資源を活かして体験型・交流型の要素を取り入れた新しい上高地の楽しみ方を提案してほしい。

② さらにインターネットメディアやSNSを活用した観光プロモーションの方法についても検討してほしい。

キーワード： エコツーリズム フードツーリズム ヘルスツーリズム ボランツーリズム

今回の活動はPDCAサイクルでいうとP(Plan)、その中でも調査、現状把握のみを実施。主に現地に出向き、現状抱えている危機感や地域資源の洗い出し、可能性のディスカッションなどを行う。

2. 参加メンバー 12名 + 田開（専任講師）+濱（考房ゆめコーディネーター）

+丸山（松本市地域づくりインターン）

－松大生 6名

－日大生 7名

### 3 日程

9月4日（火）開会式の後、グループ別での行動。

・自己紹介 上高地のウェブデザインを担当する大倉氏との打ち合わせ

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



- ・5日のグループ分けと事前準備、記録方法の確認
- ・18時より上土に移動し上土の方のお話

9月5日(水): アルピコプラザホテル 8時出発 上高地 15~16時出発

9月6日(木): 発表

#### 4 活動の具体的内容

3つのテーマに絞り込み、1日で情報収集できる範囲とする

テーマ	内容・	協力施設
①食 - フードツーリズム(食べ歩き、おみやげ)	各施設(食堂、おみやげ屋など)散策・デイキャンプ、ソトメシ体験 「河童橋」-「小梨平」-「河童橋」	西糸屋山荘 小梨平キャンプ場
②健康 - ヘルスツーリズム(アウトドア、アクティビティ)	・コース散策(ウォーキング) ・岩魚塩焼き@嘉門次小屋 「河童橋」-「明神池」-「河童橋」	明神館 or 嘉門次小屋
③観光資源 - エコツーリズム(動植物、水・空・山)	・ガイドウォーク体験 「大正池」-「帝国ホテル」-「河童橋」	上高地帝国ホテル 五千尺ホテル(NPG) 上高地ビジターセンター

#### 学びのポイント(参考程度)

**先駆性・創造性:**今までにない気づきの取組であるか、または新しいマーケットを創造しているか?

新しいビジネスモデルの創出につながっているか? ターゲット層のニーズにマッチしているか?

**社会性:**地域との共生を目指し魅力づくりに貢献しているか? ツーリズムを通じて歴史・文化遺産の保全、環境保護、ユニバーサルデザインの実現等持続可能な社会の実現に貢献しているか?

**コミュニケーション性:**情報の発信、マーケティング、言葉の壁や障害の壁あるいは人材不足を補う手段として、ICT等を活用しているか?

#### 5 用意する物品

カメラ3台

#### 6 注意事項

筆記用具、帽子、タオル、飲料(水分補給のため)、雨具、山岳地なので低温にも対応した装備と歩きやすい靴は必須、虫よけ(熊よけ用鈴等は松大生準備)